

別府ツーリズムバレー構想推進協議会 第4回総会 要旨

【開催日時】

令和2年1月15日（水） 13：30～15：00

【開催場所】

別府市役所1階 レセプションホール

【出席者】 敬称略

○委員（13名）

阿部 博光、伊藤 靖生、岡田 祥伸、神野 康弘、倉原 浩志、関谷 忠、
竹尾 真由美、橋本 栄子、原 和範、堀井 壮太、牧 昌生、宮脇 恵理、
柳川 雄飛

○別府市総合政策アドバイザー 今村 正治

○事務局等 阿南副市長、川上副市長、別府市経済産業部長、産業政策課長 外4名

【概要】

○第4回総会

- (1) 開会あいさつ（川上副市長）
- (2) 会長あいさつ（関谷会長）
- (3) 別府ツーリズムバレー構想について意見交換

第3回総会で出された意見を反映した構想案を事務局が説明し、意見交換を実施。

- ・今回の構想は大きな枠組み作りで、引き続き構想の実現に向けて動いていく。
- ・総合戦略の中にもある「SDGs」の取組み内容を盛り込む。
- ・「起業・創業等」ではわかりにくいので、経営革新、事業承継を明記する。
- ・スケジュールの中の「学び・実践の場の創出」で、「準備」となっているが、すでに取り組んでいる。大掛かりな大学校を作る必要はなく、できるところから始めることが大事。すぐでも取り組んで欲しい。
- ・スケジュールの部分を章立てして整理をした方がよい。
- ・なぜこの構想かを考えたときに、別府観光を担う人自身の質とパワーをどう高めるか、人手が足りない、新しい新産業を生み出す、この3つの問題意識が重要である。
- ・流入人口を受け入れることで、学び・働く街にすることが、外から来る人と中にいる人がそれを共有する場が学校だと思う。
- ・若者から中高年までが学べる、年齢層を広く学ぶ場をつくることや、今の観光業の従事者又は事業承継を受ける人の教育、もっと新しい最先端の観光業を学ぶことが大事。
- ・古民家活用、コワーキングスペース利用など、別府市政が実施している事業の中で、この構想がどんな役割を果たすのか、どことリンクできるかももう少し深める必要がある。
- ・特に図書館構想は重要で、ここを学びの場としてどうリンクするのか。
- ・この構想自体に課題が残っている。この課題を書き加えて長期的に来年に向けての取組むことは課題解決を目指す、と言ったことを追加した方がよい。

- ・資金供給の部分で、B-biz Link が中心となって担う支援体制が、金融機関とのマッチングをして資金供給をサポートするように見えるが、現実的には厳しく、それぞれの機関がそれぞれの形で資金供給をやっている。公的な補助金も資金供給の一つとして加えるべき。
- ・大学間での構想に対する理解が必要。新たな学部を創るのではなく、現行のカリキュラムや人員で何ができるか。京大、九大病院を含めてどんな役割を担うか議論を始める必要がある。
- ・5大学の中が、どのようなものを出していくかと言うことが、外部や地元から見て非常にワクワクする内容でないといけない。大学間のコミュニケーションを促進することをまず発しないとけない。この事務局主体をどこに置くかをすぐに考える必要がある。
- ・全体デザインとして、例えば1年間別府に住んで働きながら学ぶとはどのようなことか、今別府で働いている方にどんな講座を提供すれば良いか、実際のセミナーを今年はどこから始めるか、考えないとけない。
- ・公開講座等をもっと充実させていく企画はある。大学の先生方がいろいろな講義を持っているものを公開講座でもやっているのでは、連携は可能であり、各大学と協議して進めることは可能と思う。
- ・当面の間、事務局と本来あるべき事務局とを整理していきながら、次年度以降の取組みを事前に素案を作って皆さまにご意見いただく形にしたい。
- ・仮ではあるが、ツーリズムバレー大学校には校長が必要であると思う。日本中の人が別府で学びたい又は働きながら学べるといったインパクトが必要であり、どんな魅力で別府で日本中の観光をやりたい人財をひきつけて、例えば1年2年で教育して送り返すことができれば、草津温泉から別府に留学させますと言ったことができる。観光学のメッカになろうというぐらいの志が必要と思う。その顔となる「人」が重要となる。
- ・この大学校が、本当にしっかり動く組織、市が要になって動くような仕組みにしておく必要があると思う。

(4) 連絡事項（事務局）

- ・市長へ構想提出 令和2年1月29日（水） 13:30～

(5) 閉会

以上